

置の決定は出来ないので甚だ遺憾であります、只今氣象學上等で或る場合に用ゐて居る程度の位置(何度から何度間と云ふが如き)位の参考には多少なる事と思ひます、其外観測事項としては黒點の數、群の數、大黒點(半影の認め得る程度上のものを假りに大黒點とす)の數、及黒點又は群の出現個所、光斑等の事項を毎日記載し且つ今迄はそれを例の太陽面の圖上にスケッチして來ました、更に珍しい大黒點は一層擴大してスケッチして來て居ります、第

三圖は去る十二月中旬頃出現した有名な大黒點のものであります、其變化の狀態等に多少面白い點があるかと思ひまして茲に附け加へました。以上は私の観測の方法で従つて其價値の程度がお解りになるかと思ひます。其観測の結果は第二報として改めて御報告致す考へであります。(終)

● 樫原氏のアルゴール観測

大阪

今宮の會員樫原氏は、本誌第十一號の「變光星の夕べ」を讀んで、變光星の観測を思ひ立つた。しかるに、手には何の器械もなく、(氏は双眼鏡も持たない、)星圖もなく、只時々圖書館へ行つて、必要な星の圖を寫して來るこゝとし、毎夜非常な熱心と勤勉とを以つて、遂にアルゴール最小光輝の時間を見事に發見した。氏の報告によれば、大正十年十二月二十三日の観測は

午後六時	〇分	二・二等
同 八時	五分	二・九等
同 八時三〇分		三・二等
同 九時一五分		三・五等
同 九時廿六分		三・六等
同 十時一五分		三・一等
同 十時五〇分		二・八等

で、之れを光度曲線に表はして見るゝ下圖の如くになり、一見驚くべき成績であることを知る。(アレテン第三號参照)

